

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-48345

(43)公開日 平成8年(1996)2月20日

(51)IntCl⁵

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

B 6 5 D 33/16

審査請求 未請求 請求項の数5 F D (全 4 頁)

(21)出願番号 特願平6-148594

(22)出願日 平成6年(1994)6月7日

(71)出願人 594110273

有限会社サンシン商工

埼玉県草加市稻荷1-5-6

(72)発明者 廣山 正

東京都足立区平野3-24-7 有限会社サ

ンシン商工内

(74)代理人 弁理士 羽村 行弘

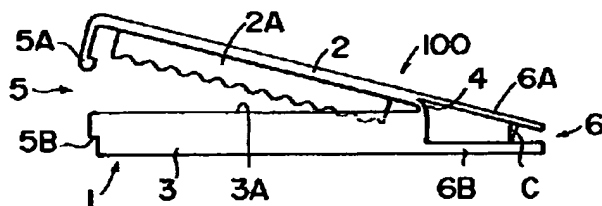
(54)【発明の名称】 袋口用クリップ

(57)【要約】

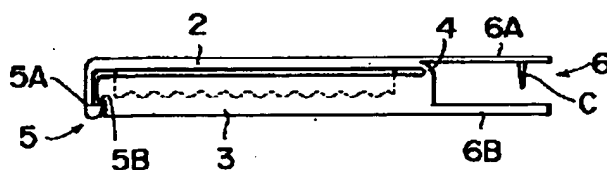
【目的】 袋詰め製品を取り扱う上で、実際の使用形態に則した利便性を発揮できる袋口用クリップを提供する。

【構成】 袋口の縁部を挟持移動して切開する切開手段を、クリップ主体に設けて、クリップ主体と一体の切開手段により、袋口の縁部を挟持して切開できるようにした。

(a)



(b)



【特許請求の範囲】

【請求項1】 袋口の縁部を挟持移動して切開する切開手段を、クリップ主体に設けたことを特徴とする袋口用クリップ。

【請求項2】 前記切開手段は、開閉自在な挟持片の内側に、切刃とその保護部材をそれぞれ備えたものである請求項1記載の袋口用クリップ。

【請求項3】 前記切開手段を、前記クリップ主体と背中合わせに一体化した請求項1または2記載の袋口用クリップ。

【請求項4】 前記切開手段と前記クリップ主体を、挟持片の一方を共通にして、2段重ねに一体化した請求項1または3記載の袋口用クリップ。

【請求項5】 前記切開手段とクリップ主体を、プラスチック一体成形してなる請求項1～4記載の袋口用クリップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】この発明は、菓子、食品などを収納するプラスチック袋の開口部を、封止可能な袋口用クリップの改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】一般に、この種の袋口用クリップ（以下、単にクリップという）は、一対の挟持片の一端部に、所定の開角度に保持する可撓性連結部を、他端部に相互係止手段をそれぞれ備えてなり、該挟持片で袋口を挟圧封止するとともに、該挟持片同士を係止することにより、封止状態を維持できるように構成されている（図5、6）。また、この種のクリップは、通常、一対の挟持片、可撓性連結部、及び相互係止手段を、プラスチック一体成形し、部品点数の削減と軽量化を図っている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】上記従来の袋口用クリップは、袋詰め製品（食品、日用雑貨品、玩具など）のサービス用付属品として添付される場合が多かった。ところが、従来のクリップは、袋口を封止する専用器具として構成されているため、新品の袋口を切開するには、鋏、カッターなどの切開手段を別途用意しなければならなかった。即ち、袋詰め製品の實用形態にあつては、まず必要なのは切開手段の方であるから、袋口封止用のクリップが袋詰め製品に付属品として添付されていたとしても、顧客に対する本当のサービスとしては片手落ちであった。この発明は上記の点に鑑み、袋詰め製品を取り扱う上で、実際の使用形態に則した利便性を発揮できる袋口用クリップを提供することを目的としている。

【0004】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するため請求項1の袋口用クリップは、袋口の縁部を挟持移動して切開する切開手段を、クリップ主体に設けた。請求

挟持片の内側に、切刃とその保護部材をそれぞれ備えたものとした。

【0005】請求項3の袋口用クリップは、前記切開手段を、前記クリップ主体と背中合わせに一体化した。請求項4の袋口用クリップは、前記切開手段と前記クリップ主体を、挟持片の一方を共通にして、2段重ねに一体化した。請求項5の袋口用クリップは、前記切開手段とクリップ主体を、プラスチック一体成形した。

【0006】

- 10 【作用】請求項1の袋口用クリップにおいて、袋口の縁部を挟持移動する切開手段により切開される。請求項2の袋口用クリップにおいて、挟持片の内側の切刃とその保護部材により袋口縁部を挟持し、縁部に沿って移動させると、袋口が安全に切開される。請求項3の袋口用クリップにおいて、クリップ主体を一方の向きに把持すれば切開手段、逆向きに把持すればクリップとして供される。

- 20 【0007】請求項4の袋口用クリップにおいて、袋口に対する把持姿勢を変えることなく、袋口の切開手段ないし封止手段が選択される。請求項5の袋口用クリップにおいて、プラスチック製の切開手段ないしクリップ主体の製造と構成が簡素化される。

【0008】

- 30 【実施例】以下、この発明を添付の図面に基づく実施例により説明する。第1実施例を示す図1において、1は本願袋口用クリップ100のクリップ主体で、該クリップ主体1は、内側に凸条2Aを有する第1挟持片2と、該第1挟持片2と所定の開き角度で対向し、かつ該凸条2Aに対応する凹溝3Aを有する第2挟持片3とからなっている。該凸条2Aの先端縁は、袋口Tに対するグリップ性を向上させるために、波形に形成されている。即ち、該第1挟持片2と第2挟持片3により、袋口Tを挟持すれば、前記凸条2Aと凹溝3Aとが相補的に嵌合して、該凸条2Aと凹溝3Aの間に袋口Tを挟み込んで、ほぼ気密に、封止状態を維持できるように構成されている。

- 40 【0009】該第1挟持片2と第2挟持片3は、一端に可撓性連結部4を、他端に係止手段5を、それぞれ備えている。該可撓性連結部は、開時における両挟持片2、3を所定の開角度に保持するためのもので、例えば、開角度＝20～40度となるように構成されている。ここで、該可撓性連結部は、ゴム、ウレタン樹脂などの弾性部材で挟持片2、3とは別個に構成してもよいが、本実施例では、第1挟持片2と第2挟持片3、及び可撓性連結部4を可撓性プラスチックで一体成形し、特に、可撓性連結部4は、薄肉成形された带状部材とすることにより、所望の開角度を実現できるようになっている。

【0010】前記係止手段5は、先端に鉤部を有する第1挟持片2側の可撓鉤5Aと、該鉤部に係止可能な第2

3

ち、第1挟持片2と第2挟持片3を閉状態にすれば、該可撓鉤5Aと係止コーナー5Bが自動的に係合して、両挟持片2、3を閉状態に維持できるように構成されている。

【0011】6は切開手段で、該切開手段6は、切刃Cを有するカッター挟持片6Aと、該切刃Cに対向する保護挟持片(保護部材)6Bとからなっている。該切開手段6は、第1実施例においては、前記クリップ主体1と背中合わせに一体化されている。即ち、カッター挟持片6Aと保護片6Bは、前記可撓性連結部4を共通にし、クリップ主体1の第1挟持片2と第2挟持片3が閉状態にある時、ほぼ平行、かつ所定の間隔を開けて対向するように構成されている(図1(b))。また、該切開手段6は、クリップ主体1が開状態にある時は、該カッター挟持片6A、6Bの先端がほぼ接する程度に近接するようになっている。また、クリップ主体1の開度を大きくして、カッター挟持片6Aと保護挟持片6Bが接する状態になった場合でも、各挟持片6A、6B自身の可撓性により適度に変形して、クリップ主体1の開口動作を妨げないように構成されている。

【0012】該切開手段6は、図2のように、クリップ主体1が開状態にある時、カッター片6Aと保護挟持片6Bの隙間に袋口Tの縁部を挟み込んで、辺縁に沿って挟持移動させれば、袋口Tを開くことができるようになっている。該切開手段6は、前記クリップ主体1と別体に構成されたものを、前記可撓性連結部4に固設してもよいし、クリップ主体1と一体にプラスチック成形してもよい。

【0013】次に、切開手段と前記クリップ主体を、2段重ねにした第2実施例について説明する。図3において、切開手段6は、クリップ主体1と同方向で、クリップ主体1の下側に、2段重ねに設けられている。即ち、クリップ主体1の第2挟持片3は、切開手段6の保護挟持片6Bと共通化されるとともに、該第2挟持片3(受け挟持片6B)の下側には、切開手段6のカッター挟持片6Aが、所定の開角度で対向するように設けられている。

【0014】このため、閉状態にあるクリップ主体1の下側の切開手段6に、未開封の袋口Tを挟み、その辺縁に沿ってカッター挟持片6Aの切刃Cを移動させれば、袋口Tが切開できるように構成されている(図4)。

【0015】

【発明の効果】上記のように請求項1の袋口用クリップは、袋口の縁部を挟持移動して切開する切開手段を、クリップ主体に設けているので、クリップ主体と一体の切開手段により、袋口の縁部を挟持して切開することがで

4

きる。請求項2の袋口用クリップは、切開手段が、開閉自在な挟持片の内側に、切刃とその保護部材をそれぞれ備えているので、挟持片の内側のカッターとその保護部材により袋口縁部を挟持し、縁部に沿って移動させれば袋口が切開される。

【0016】請求項3の袋口用クリップは、前記切開手段を、前記クリップ主体と背中合わせに一体化しているので、クリップを一方の向きに持てば切開手段、逆向きに持てばクリップとして供することができる。請求項4の袋口用クリップは、前記切開手段と前記クリップ主体を、挟持片の一方を共通にして、2段重ねに一体化しているので、袋口に対するクリップ主体の姿勢を変えることなく、袋口の切開と封止を行うことができる。請求項5の袋口用クリップは、前記切開手段とクリップ主体を、プラスチック一体成形しているので、製造と構成が簡素化され、軽量・安価にて使用に供される。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)本願袋口用クリップの第1実施例の開状態を示す正面図である。

(b)本願袋口用クリップの第1実施例の閉状態を示す正面図である。

【図2】切開手段の動作説明図である。

【図3】本願袋口用クリップの第2実施例を示す正面図である。

【図4】切開手段による袋口の切開過程を示す斜視図である。

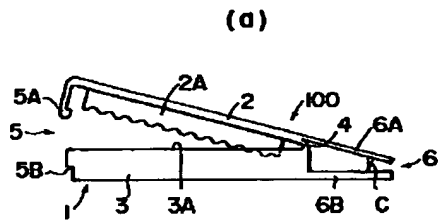
【図5】クリップ主体による袋口の封止状態を示す断面図である。

【図6】クリップ主体による袋口の封止状態を示す斜視図である。

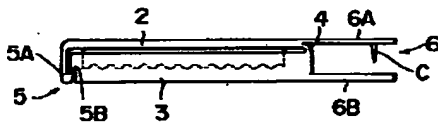
【符号の説明】

- 1 クリップ主体
- 2 第1挟持片
- 2A 凸条
- 3 第2挟持片
- 3A 凹溝
- 4 可撓性連結部
- 5 係止手段
- 5A 可撓鉤
- 5B 係止コーナー
- 6 切開手段
- 6A カッター挟持片
- 6B 保護挟持片(保護部材)
- T 袋口
- C 切刃

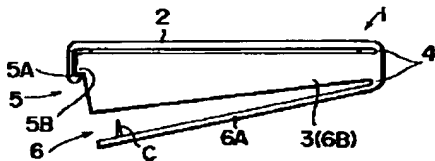
【図1】



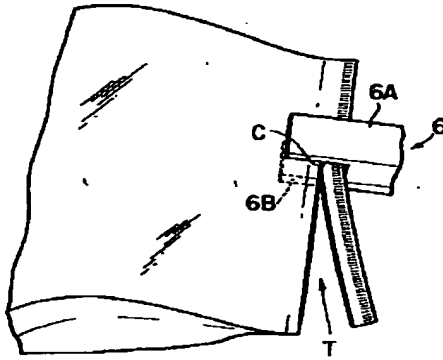
(b)



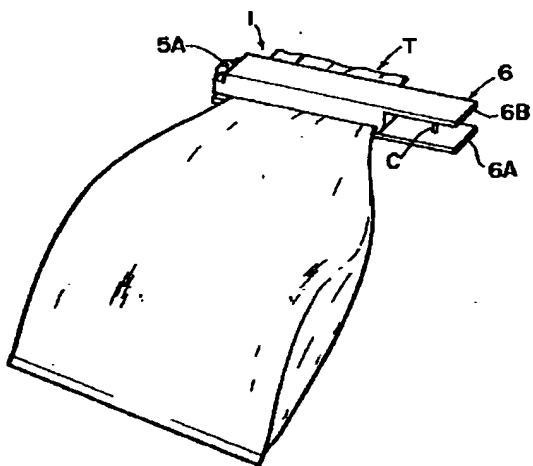
【図3】



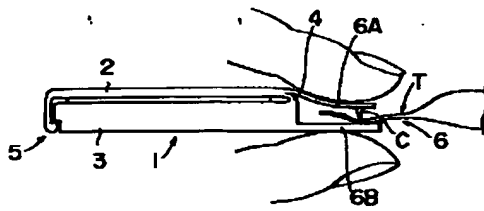
【図4】



【図6】



【図2】



【図5】

